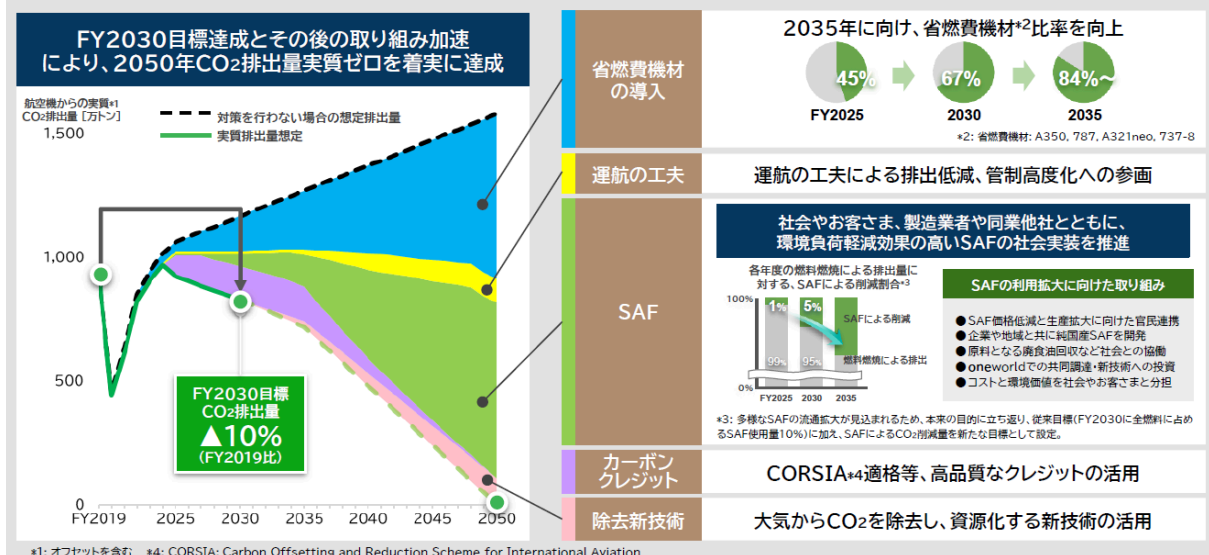


JALグループ、2025年度のGX経営目標を達成

～世界に先駆けて、CORSIA適格燃料・クレジットを活用～



JALグループは、2020年に国内航空会社で初めて2050年までにCO₂排出量実質ゼロを目指すことを宣言し、2025年度までに航空機からの実質CO₂排出量を、2019年度水準(921万トン)未満とすることをGX(グリーン・トランスフォーメーション)に関する経営目標として掲げて取り組んできました。(*1)

これまで省燃費機材への更新や日々の運航の工夫に加え、SAFとカーボンクレジットの活用により、2025年度の目標値を達成しました。また同時に、2025年度に全燃料搭載量の1%(約4万キロリットル)をSAFに置き換えるという目標も達成しています。

■CORSIA(*2)適格燃料・クレジットの活用推進

CORSIAはICAOが定めた国際的な枠組みで、日本を含む世界各国の航空会社は、CO₂排出量のモニタリングと削減(SAF使用やクレジット活用)が義務付けられています。JALグループでは、2024年度にCORSIA適格燃料の基準を満たしたSAFの調達、2025年度にCORSIA適格クレジットの調達・償却を開始しました。JALグループはこれからも、CORSIAの枠組みを通して、透明性と質を担保しながら、実質CO₂排出量の削減に取り組んでまいります。

JALグループは、2030年度の経営目標である2019年度比10%減(828万トン)の達成に向けて、2030年度の燃料燃焼によるCO₂排出量の5%をSAFによって削減する目標を新たに掲げました。(*3)従来の目標である全燃料に占めるSAFの割合10%への置き換えにも継続して取り組んでまいります。省燃費機材への更新や運航の工夫、SAFなどのバリューチェーン内でのCO₂排出量削減に最大限努めながら、CORSIA適格クレジットなどのバリューチェーン外でのCO₂排出量削減にも継続して取り組んでまいります。

(*1)「2021-2025年度JALグループ中期経営計画」にて公表。詳細URL:<https://press.jal.co.jp/ja/release/202105/006065.html>

(*2)Carbon Offsetting and Reduction Scheme for International Aviationの略で、ICAOが定めた国際的な炭素をオフセット・削減する枠組みで、国際航空を対象に、排出量のモニタリングと「2019年のCO₂排出量の85%を超過した分」の削減を義務付ける制度。本スキームで削減効果を主張するには、利用するSAF・クレジットがCORSIA適格である必要がある。

(*3)JALグループ経営ビジョン2035 詳細URL:<https://www.jal.com/ja/philosophy-vision/strategy/>

以上